

## 旧手宮鉄道施設

小樽の手宮鉄道施設は 19 世紀の終わりに北海道初の機関車を格納・管理するために建てられました。現在は小樽市総合博物館の一部となっており、縮尺模型、写真、鉄道車両や蒸気機関車を通して北海道における初期の鉄道の歴史を伝えています。

19 世紀の終わりに、幌内（現在の三笠市）の炭鉱から札幌を経由して、小樽まで続く鉄道建設の指揮を執ったのはアメリカ人鉄道技術者ジョセフ・ユージー・クロフォード（1842 年-1924 年）でした。幌内鉄道は、まず手宮～札幌間が 1880 年に開通し、1882 年には全線が完成しました。

施設内のいくつかの建物は国指定重要文化財になっています。機関車庫三号は 1885 年に完成した現存する日本最古の機関車庫で、3 台の機関車を格納することができます。5 台の機関車を格納できる機関車庫一号は 1908 年に完成しました。1919 年に造られたスチール製の転車台は、博物館の敷地内を 1 日数回走行する北海道で一番古い現役の蒸気機関車「アイアンホース号（Porter 4514）」を操作するために現在も使用されています。

その他にも蒸気機関車に水を供給するために 1916 年ごろに造られた貯水槽や、塗料や石油などの可燃物を保管するために 1898 年ごろに建てられた石造りの危険品庫があります。1911 年に石炭積み込み専用として造られた手宮高架栈橋は既に取り壊されていますが、栈橋まで続く線路の路盤を支えていた擁壁の一部は今も残っています。